

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「人と人との繋がりが笑顔の輪になる」という事業所理念を、皆様が見やすい玄関に掲げ、職員や管理者、事業所に関わる全ての者が目標を達成出来るよう日々努めています。		施設の理念「人と人との関わりが笑顔の和につながる。」は、目に触れやすい玄関に掲示されている。毎朝のミーティング及び月1回の職員会議にて確認している。管理者が中心となり、理念が実践に繋がられるよう職員・ご利用者・地域の和を大切に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	元々地域の皆様に親しまれていた旅館であった環境を生かして、本年度は地域の皆様に施設を開放して、夏祭りを行いました。地元の手の方を招いて歌謡ショーも開催しました。ご利用者様やご家族様、地域の皆様に喜んでいただけました。		施設は、民家から離れているが、元々が地域から親しまれた旅館であったため地域に認知されており、施設の夏祭りには地域の方も参加され、催し物等を楽しんでいる。地域の方のボランティア(オカリナ演奏等)も積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	朝日村の地域の家庭介護教室で「施設の上手な使い方」のテーマで講師派遣の依頼を受け、自宅で介護をされている方々の生の声をお聞きしながら、交流を行ってきました。		/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	地域の区長様や民生委員、村役場の職員、ご家族様代表の他、季節や行事により、関係する方々をメンバーに加えて、年6回行っています。		運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、家族代表、役場、区長、民生委員が参加されている。防災に関する議題も話し合われており、グループホームが被災した場合の避難ルートや地区との合同避難訓練の件などが話し合われていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	村の地域会議には積極的に参加し、事業所の実情を伝えて協力関係を築いています。すぐに相談できるように日頃から連絡を取り合っています。		上記の通り、2ヶ月に1回の運営推進会議を主として、役場の方と運営に関する情報が共有されており、行事の内容や防災等の様々なテーマで協力関係が築かれ、連携が図られている。また役場が主催する地域会議にも出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修は法人全体で行っていましたが、現在は職員会議の議題として取り組んでいます。		身体拘束に関する指針がまとめられ、月1回の職員会議で身体拘束をしないケアについて話し合いが行われている。現在、身体拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	職員の疲労やストレスが利用者様に悪い影響を及ぼす事があるので、職員の業務負担の軽減を考えています。		/	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員に対して教育の機会が少なかったため、今後教育のため勉強会を行って行きたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者(ご家族)様には契約書の内容を説明し、質問にはきちんと時間をかけ、納得して頂けるまで答えるようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様には普段の生活の中で聴き取りさせていただき、ご家族様とは面会時やケアプラン説明時に意見や要望を聴き取りしています。	ほとんどのご家族が、毎月の利用料を直接施設に来て支払われており、その際に運営に関するご要望などを確認している。また運営推進会議にも家族が出席されているため、意見や要望を確認する機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人においての月1回の管理者会議、事業所内での研修会、職員会議等の場において、運営に関する話し合いの場を設けています。	朝のミーティングや毎月開かれる職員会議等で職員の意見を集めて、管理者会議等で話し合いを行い、運営に反映できるよう取り組まれている。最近では処遇の改善に繋げるなど取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各自が向上心を持って働ける職場環境や条件の整備については、職員の意見や管理者の意見の元において整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	同一法人の宅老所・有料老人ホーム・訪問介護事業所との合同研修「介護技術研修」を行い、介護技術や利用者様に対する接遇等について学ぶ機会を設けています。本年度は事業所内でハラスメント防止の研修を行いました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	「朝日村地域ケア会議」や法人内研修の場において、各事業所相互のサービスについて情報の交換を行い、質の高いサービスを行えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前後にご本人・ご家族と十分に話し合いを行い、グループホームでどのような生活をしていきたいかを確認し、ご本人に対するケアの参考にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	現在困っている事や、不安に思っている事などを、入居前後にご本人やご家族より聞き取りを行い、サービスに繋がるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者様が先ず必要とされている支援を見極めて、実践に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	会話を重視し、利用者ご本人の「声」を大切に、職員は利用者様との良好な関係構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との面会を大切に、難しくなっていくご家族様との関わりを両方の目線にたって、ご本人への支援に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設への訪問や面会はいつでも来て頂く事が出来るようにしています。電話等も直接ご本人に繋ぐようにしています。	家族、友人、知人の面会を積極的に対応しており、電話も本人に取り次いでいる。地域の催し物を見学に行ったり、馴染みのある地区のお花の名所に見学に行く等、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が利用者様同士の輪に入り、耳が遠い方や認知症の症状により意思の伝達等が困難な場合があるときは、お互いの思いや感じている事などを伝え合うように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された後も、移動先の施設への訪問面会やご家族との連絡を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のケアの中より得られた利用者様の言葉を書きとめて、意向の把握を行い、朝のミーティングや職員会議でのカンファレンスの場において、職員間で話し合い共有するよう努めています。	担当職員だけでなくユニット職員全員が、日々の関わりの中で、本人の思いや意向の把握に努めており、それにより外出に繋げたり、食事作りのメニューに反映させたりする等、実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に担当ケアマネージャーより情報の提供を頂いています。場合によってはご本人の情報をご家族様より聞き取り、より細かな情報の収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様の日々の様子や変化を、職員は表情や言動を通して観察し、引継ぎの場において共通理解し、その後のサービスに結び付けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の現在の状況を把握して、担当者と職員間でカンファレンスを行い、現状に即した計画を作成しています。	担当職員が中心となり、毎日開かれる朝のミーティング時に、全職員で随時話し合いが行われて、心身状態に合わせ現状に即した介護計画が作成され、支援が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人業務日誌、夜間日誌等に記入して、口頭でも情報を共有し、実践や見直しに活かしています。また、伝達ノートを作成して日々の情報が確実に伝わる工夫をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	変化時に生まれるニーズに対しては、その度に適正な支援やサービスで対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	中学校の職場体験学習の受け入れや地域のボランティアさんの訪問、また、行事等のご家族及び同一法人宅老所との協力、地域の方の訪問来所により、利用者様の生きがいのなるような暮らしを目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診はご本人、ご家族様の昔からのかかりつけ医となっています。月2回往診と月1回往診となっています。また緊急の場合は何時でも受診できるよう支援しています。	かかりつけ医は、本人及び家族の意向が尊重され、自由に選ぶことが出来る。現在の入居者は、全員が朝日村の出身で、これまでのかかりつけ医を継続する形で医療が提供されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	主治医の看護師と連携をとり、相談やアドバイスを受けて、適切な受診の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとの連携を図り、現状を把握しています。また、退院時の受け入れ体制も整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様に終末期の在り方、重度化した場合の在り方など、グループホームでできること等を説明して、医療関係者とも連携し職員と共に方針を共有しています。	重度化、終末期のあり方に関する指針が作成されており、入所時から家族に対して説明が行われている。状況により再度説明をして、方針を共有しながら支援している。ここ数年は看取りはされていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご利用者様の急変時、事故発生時に対する初期対応、応急手当等の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	屋間における避難訓練は元より、夜間想定災害発生時の避難誘導訓練も、職員一人ずつ、夜勤を行う者が行い、夜勤一人体制時でも対応出来るよう訓練を行っています。また、災害時に備え、非常食、飲料水、備品の準備も行っていきます。	夜間想定を含めて年2回の避難訓練が実施されている。土砂災害の警戒区域になっており、運営推進会議でも議題に上がり対策等が検討されている。また福祉避難所にも指定されており、地区の防災拠点として、日頃から地域との協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	長く人生を送ってこられたご利用者様に対し、個々の人生や生活歴等を配慮した声かけ、言葉遣いを行うよう職員会議時に接遇について議題に挙げ、話し合いを行っています。	管理者が中心となり、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけが徹底されるよう、朝のミーティングや月1回の職員会議等で議題に挙げ、話し合い等が行われている。	コロナ以降、集合研修等の頻度が、以前と比べ少なくなっていると聞き取った。OFF JTの機会として、研修等をコロナ以前のように取り組まれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々、利用者様ごとに声かけを行い、自己表現が苦手な利用者様には表情や行動等を観察しながら、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の行動はご本人のペースに合わせて過ごしていただくように支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自立されている方には、ご自身の思い通りの服装に着替えていただきますが、ご自身の状態によっては職員が声かけを行って選んいただき、介助にて着替えを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんでいただくように色合い、品数等を工夫しています。また、体調に合わせた献立、季節に合わせた献立等で楽しんでいただいています。ご利用者様には下準備、後片付け等に取り組んでいただいています。	食事はすべて施設内で手作りされており、入居者が各々の能力に応じて、調理の下準備や片付けに参加されている。献立も入居者の意見が取り入れられ、食材は、入居者の家族や民生委員などが季節の旬の野菜を持ちよって調理されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人に合わせて、栄養バランスを考えた食事や水分を確保できるような食事の支援をしています。また、水分に関しては、コーヒー等の好みの物も取り入れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	3食毎回、口腔ケアを実施しています。できる限りご自身で洗浄していただき、その後のチェックや洗い直しを支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	毎日それぞれのご利用者様の24時間排泄チェックの記録を行い、パターンや時間を確認し、時間によるトイレ誘導等、自立支援を行っています。	出来る限りトイレで排泄できるように、排泄チェック表を用い、その人に適した時間、間隔でトイレへの誘導を行っている。入居後に、紙パンツから布パンツになった方や放尿が落ち着いた方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の排便チェックを行い、体操や水分補給、食物繊維の摂取等をすすめ、便秘の予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	ご本人の希望を取り入れて、ご利用者様は時間にとらわれることなく、ゆっくりと入浴していただいています。	1週間に2回入浴されている。おおよその曜日は決められているが、その日の心身状態により臨機応変に対応されている。職員と1対1でゆっくりとした入浴の支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中休まれる方、活動されている方とそれぞれの生活習慣に応じた過ごし方をさせていただき、夜間もゆっくりと休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとり薬の用法や用量を理解したうえで支援をしています。症状の変化に対しては、常に主治医と連携をとっています。配薬時には職員同士でダブルチェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除、食事の片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ等、役割として行うように支援をしています。また、楽しみ事として暖かい時期は庭でのお茶会、寒い冬は大広間で気分転換を兼ねて個別の楽しみを支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には施設前の広場にて日光浴をしています。車でドライブ等も行っています。近隣の道の駅等にも出掛けて利用者様に好みの菓子等を選んでいただき、購入して楽しんでいます。	天候の良い日には、施設隣にある芦ノ池湖畔での日光浴や池の遊歩道を散歩したり、車で近隣にある道の駅や、季節にはお寺に咲きだれ桜、カタクリの花等の鑑賞に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には金銭等は持ち込まないことが原則ですが、ご本人やご家族様の了解後、お金を金庫にて保管し、ご本人の必要時に応じて使用できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様や友人からの電話や手紙等は取次を行い、お返事の支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の場所にはなるべく利用者様が作られた作品等を飾り付けております。建物が広いため、利用者様はお互い不快な思いや混乱を招く事無く過ごしております。また、玄関先に出たり、大広間の窓を眺めたりするだけで自然の景色を楽しむことができます。	芦ノ池の静かな湖畔にありロケーションは抜群に良い。広い大広間の窓辺には椅子が並べられ、大きい窓から眼前の池や樹々の眺望が楽しめる。玄関前の湖畔にも、テーブル、椅子があり、天候の良い日には湖畔でのひと時を楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	当グループホームには「畳」の大広間がありますので、様々な場面で有効に活用し、利用者様に思い思いにゆっくりと過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室は広く、収納も個々出来るようにしてあります。利用者様はご本人、ご家族様により、馴染みのあるものを持ち込まれています。それにより自宅での生活に近づける工夫がなされています。	割烹旅館の客室を改装しているため各居室とも広く、自宅で使い慣れたタンスや仏壇等、大き目の家具も持ち込まれており、自宅での生活が継続できるよう取り組まれている。入居されても、趣味の編み物や将棋を継続して楽しまれている方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は広く、居室からの移動も歩いて来られる方が多いですが、転倒の危険性も考えられます。事務室がちょうど廊下を見渡せる位置にありますので、そこから移動の様子を見る事ができ、また、場合により誘導介助の指示も職員に伝えられ、安全に生活が出来るよう配慮しております。		